

資料

水橋の俳諧一枚摺と絵師松浦守美

Mizubashi 'ichimazuri' haiku poetry screens
and the painter Matsuura Moriyoshi

大西 紀夫

OONISHI Norio

富山の絵師、応真斎こと松浦守美が挿絵を描いた俳諧一枚摺はこれまでに十八点見つかった。今回他に二点見つかったので紹介する。いずれも水橋のものである。

⑱旅姿の男の図(応真斎守美画) 註1

縦19・4×横25・9 (糶)



おりる雁は面を低うまわりけり

三袋

火を焚た蕎麦にあぶなき案山子哉

富墨

菊あればこそ客も有十日かな

銀峰

見直しに押かけ客や十日菊

一蓑

たすきがけて音のよき砧かな

梅庭

灯ともせばまぼろしに添ふ虫の声

甫斎

雲に目のとゞいてけふの月見哉

梅三

水を行影も涼しやあきの蝶

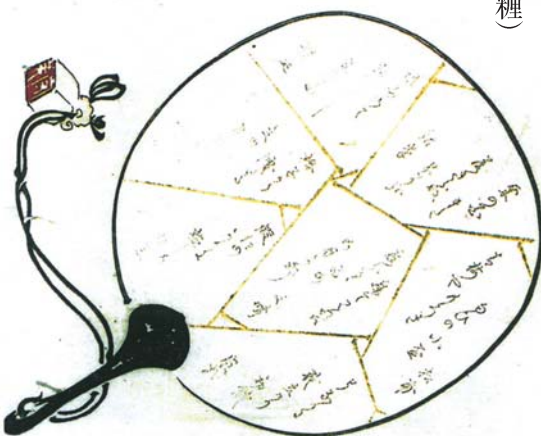
文峯

ひとつ家の音には近ききぬた哉

松浦 註2

⑳団扇の図(応真斎守美画)

縦16・8×横18・7 (糶)



おおにし のりお (経営情報学科)

青梅や匂ひのもろき小盃

松浦

栗の花まだ落きらぬ曇り哉

銀峯

降しめて松風寒し五月雨

梅庭

格子から洩たる夏の月夜かな

□ □

仮住のかりに植しか杜若

梅暉

弓なりに戦立けり初幟

嵐哉

寝て見れば寝らるゝ雨の五月かな

文峯

水橋の俳人と松浦守美の関係の深さは、俳諧一枚摺の挿絵を多く描いていることからよくわかる。かつて拙稿「山下守胤と松浦守美の俳諧一枚摺」(「富山短期大学紀要 第46巻」2011・3)で、守美の「大盃を持つ狸々の図」の俳諧一枚摺に、水橋の網元尾島家の白圭の還暦の祝いのものを紹介した。

ところで、この尾島家に、「立山橋架橋祝賀」の俳諧一枚摺が、所蔵されていることが確認できたので紹介する。これは、大村歌子氏の『櫻井家の俳諧』(平成16)に、紹介されているので、転載させていただく。

②1立山橋架橋の図 明治二巳春

縦39・0×横51・0 (糎)



しら梅や見晴のよき月と橋

ト山

嵐布

鶏にやるあいそやさしや若菜売

シンボリ

禾城

あらましの言葉尽して筆はじめ

長江

松塙

枝たるゝ垣より外にはつ桜

石割

竹陰

引汐の橋ひろくと春の月

西水橋

鷗渚

はし杭に人影もして朧月	水橋	草嶽
大川やひと瀬くゝに春の色		草衣
七草やならべて薫る椽の先		白峯
蓬萊や日さす障子を明はなす		勒斎
引鶴や岨に片よる根なし雲		甫斎
鶯なれけりはしの人通り		東江
舟まちに手伝う風の早泊		稲哉
する所もをろそかにせず福寿草		梅幹
ぬれて来たそぶりも見せぬ燕哉		一蓑
長い根にみどりも立や小松曳		友甫
打はず縄手の杭やきしの声		米甫
初午やぬかり出したる裏通り		梅月
門松や隣もふとき起こゝろ		那斎
まぎれなき鐘の遠音や御忌詣		草星
海苔を干手業は軽し浦つゞき		文溪
夕月におはれて下る雲雀哉		梅雪
万才の影に幅ある戸口かな		梅路
弟に先語らせて夢はじめ		梅前
人群の橋ひまどる彼岸かな		梅久
同じ派の寺へ出代る男かな		其泉
陽炎やそとへ持出す藁仕事		伯友
懸はしやはるゝ霞の一气色		琴甫

催主

酔びとの賑ふ橋や松の内
 松甫
 初東風や向ふゆきゝの橋の反
 吟窓
 ゆたかさや橋と柳の水移り
 草露
 俳諧一枚摺の他に、守美は水橋の水橋神社の絵馬の「義経海士ヶ瀬渡渉」
 奉額の画を描いている。このように水橋の俳壇の關係は非常に深かった。
 後年、守美は多くの売薬版画を描くことになるが、水橋に売薬人が多
 かったことで、その需要があつたのであろう。同じように、隣の東岩瀬
 でも同じようなことが指摘される。

註

註1

これまで、紹介した守美の俳諧一枚摺は次の通り。

- ① 松葉に梅の枝の図 八重ノ社中 明治十年 清水家蔵
- ② 雷神図 酉の春(万延2) 同
- ③ 里芋の図 安政年間 同
- ④ 香炉の図 同
- ⑤ 盃の図 同
- ⑥ 蜃気楼図 嘉永年間 同
- ⑦ 笛の図 折橋家蔵
- ⑧ 扇の図 午の春興行 同
- ⑨ 武士の図(袴の佩刀の十村) 同
- ⑩ 杖の図 未の春 同
- ⑪ 董の図 同

⑫放生津八幡宮の家持の歌碑の図 安政四年巳初春 同

⑬波頭の図 幕末 岩倉家蔵

⑭煎茶の図 甲子の秋(元治元) 早稲田大学付属図書館蔵『摺物句帖』
所収

⑮大盃を持つ猩猩の図 丁巳のとし 個人蔵

⑯橋を渡る番傘を差す後姿の男の図 架蔵

⑰月に鴉の図 同架蔵

⑱朝顔の図

また、紹介した拙稿は次の通り。

・『東岩瀬郷土史会 会報102号』①、②

・「越中の絵入り俳諧一枚摺と絵師達」(『富山短期大学紀要』第43巻) 2

008・3) ③～⑥

・「折橋家の俳諧」(『早稲の香』第18号) ⑦～⑪

・『富山新聞』平成21年11月20日の朝刊⑫

・「山下守胤と松浦守美の俳諧一枚摺」(『富山短期大学紀要』第46巻) 2

011・3) ⑧～⑱

註2

催主は松甫で、東水橋の狐塚屋桜井家五代伝三郎である。明治二年七月

二十二日没。行年三十歳

(後記)⑲⑳の一枚摺は中島俊夫氏蔵。

(平成25年10月31日受付、平成25年11月15日受理)